（別紙様式１）　**令和7年度　学校評価（自己評価）及び学校関係者評価報告**　　学校名〔京丹後市立かぶと山小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
1　久美浜学園教育目標 「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもの育成」 2　めざす児童像 （1）意欲的に質の高い学力を身につけようとする子 （2）自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子 （3）心身を鍛え、粘り強く最後まで協力して取り組む子	○校内の重点研究と市の研究組織からの学びを関連付け、探究的な学びの単元構想についての研究を進めることができた。また、探求的な学びの土台となる「安心・安定した学級経営」「基礎学力の定着」について、校内研修により深めることができた。 ○「つながり」を視点とした教育活動により、安心安全な学校・学級づくりと、異年齢集団の人間関係づくりを進めることができた。 ○地域とのつながりを大切にした活動を大切にし、児童に豊かな体験を通した学びの場を設定することができた。 △「不登校」の解消に向けて、個々のアセスメントをより丁寧に行い、心理的安全性の確保や基礎学力の定着等について、今後も保護者とも連携した取組を継続的に進める。	**「安心感の中で失敗しても挑戦できる」学校を目指して** 1　「トライ＆エラー」できるための安心感を醸成する。 2　正しい価値が通る落ち着いた学級経営を大切にする。 3　探究的な学びを視点とした研究推進を行い、授業改善及び指導観の転換を目指す。 4　明確な目標をもち、具体性・計画性・合意性を意識し、組織や過程を活かした教育活動の推進を目指す。 5　指導観を学び合い、コミュニケーションを大切にする。

評価項目	重　点　目　標	具　体　的　方　策	成果と課題（自己評価）	学校関係者評価
教育課程 学習指導	1　探究的な学びに向けた授業づくり 2　基礎基本の定着を図る取組の充実	（1）外部研究組織等との共同研究により、算数科における探求的な学びの形について校内研究を充実させ、目指す児童の姿や授業展開を具体化させる。 （2）様々な学習形態の中で学びを自己調整する力とコミュニケーションの力を高め、協働的に学ぶ学習活動に取り組む。 （1）ＩＣＴの効果的な活用も含めた家庭学習の取組方法等の充実を目指す。	○中部大学准教授の伴走支援を受けながら、算数科における探究的な学びとして「カード実践」を取り入れた。カードによる知識・技能の蓄積が、知識や概念の一般化につながり、それにより単元を越えた活用の姿も見られた。 ○毎学期行った「つながりスタディ」の取組では、異年齢による教え合いの場の設定によりコミュニケーション能力の向上にもつながる学びとなった。 ○単元内に自由進度学習を取り入れることで、意欲の向上や、期間等に合わせた自己調整の力の向上につながった。 △自由進度学習による授業の中で、知識や技能、概念等の確実な習得を意識した展開の工夫が必要であった。 △学習に対する主体性（非認知能力）と合わせて、学力（認知能力）の向上を児童自身が実感し、一体的に高めていける好サイクルが回るよう指導・支援を工夫していく必要がある。 △探究的な学びの手法において、「整理・分析」の過程を充実させることに課題が残った。特に「分析」の過程で収集した情報から思考する学習活動を仕組むことについて今後も研究を積み上げていきたい。	・異年齢での教え合いの場の設定等、学習もつながりも大切にした取組を継続してほしい。 ・自主性を大事にしながらも、決められたことがきちんとできる力も必要なので、バランスが大切である。 ・算数等で、答えがわかってもそこまでの過程をいくつも考えようとする姿が見られてよかった。

学校教育指導の重点、保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	生徒指導	1　安心と安定のある学級経営の充実 2　「いじめ」「不登校」等の未然防止に向けた日常的な指導及び相談活動の充実	（1）生徒指導の４視点（自己存在感・共感的人間関係・自己決定の場・安心安全な風土）を機能させた学級経営を推進する。 （2）肯定的評価や価値付けの積み上げにより、判断力の向上や認め合える集団づくりを目指す。 （3）学校や学級における自治的な活動を充実させるで、よりよい学校生活を作り出す経験を積み重ね、自律に向けた土台づくりを行う。 （1）日常的な実態把握と丁寧なアセスメントにより、組織的な見立てと方針を共有・確認し取り組む。 （2）ＳＣやＳＳＷとの連携により、専門的な観点を踏まえた取組を推進することによって、いじめや不登校の未然防止につなげる。 （3）保護者面談を積み上げ、方針や状況、見通しを共有しながら、家庭・学校が連携した取組を進める。	○各学級でも、学校全体においても、児童一人ひとりが安心して自己表現できる関係性が築けている。保護者アンケートでも「児童は、安心して学校生活を送っている。」の項目で 97%の肯定的な回答を得られた。 △日常的な自治活動（委員会や係活動）において意欲的に取り組む姿は見られるが、創造的な活動よりこれまでの活動を優先する姿もある。「何のために」と思考し、目的に応じて創り出す経験を豊かにしていきたい。 ○心理的安全性の高い学級・学校を目指した学級・学校経営が、いじめの未然防止につながった。 ○ＳＣやＳＳＷと教育相談担当との連携により、専門的な視点をもった組織的な対応を行った。 ○保護者面談やＳＣ・ＳＳＷを活用した面談により、子育てに不安のある家庭支援にも成果が見られた。 △家庭と学校が一緒に子どもを育てていく感覚が広がるよう、保護者面談の内容充実や信頼関係の構築に継続して取り組んでいきたい。	・体の成長を考えると良い姿勢で学習することは大切である。姿勢良く、歪みのない体は一生の財産になる。 ・上級生が下級生のために事前に準備をして行事を進めたり、勉強を教えたりする意識がとてもよい。 ・休み時間から授業への切り替えや、集中が途切れる時間での声掛け等も必要だと感じる。
	健康・安全	1　規則正しい生活ができ、健康で安全な生活を送ることができる児童の育成	（1）児童同士の関わりを大切にした体力づくりを行い、主体的で継続的に取り組む態度を育む。 （2）ＳＮＳ講習会や保健指導を年間に位置付け、メディアコントロールの力を身に付けさせ、基本的な生活習慣の確立を目指す。 （3）安全ボランティアの方々との連携や定期的な懇談や、通学班会等により、実態把握と指導を行い、登下校の安全確保に努める。	○マラソン大会の取組に合わせて、個々に目標をもった朝マラソンを行い、継続的に取り組む姿勢や体力の増進につなげた。 ○久美浜学園のＳＮＳ講習会（中年年）や、京丹後警察ＳＳによる非行防止教室（低・中学年）、日々の指導により、メディアと上手に付き合うための自己調整能力を高めた。 ○地域の駐在や安全ボランティアの方との日常的な情報共有や、民生児童委員等との定期的な懇談により、積雪・熱中症等への対応を含む登下校時の安全対策に努めた。 △校区内でのクマの目撃情報等を tetoru により配信したり、登下校時にパトロールを行ったりしたが、十分な安全対策には保護者や地域等の協力を募る必要がある。	・登校時にスクールバスが遅れた際、連絡がどうしても遅くなる。改善できないか。 ・地区によって見守り隊の人数に差があり、いない地区もあるため、募集を継続してほしい。

	情報活用能力（ICT 活用）	1　ICT を活用した多様な学習により、情報活用能力とコミュニケーション能力の向上	（1）ICT の活用により、児童の興味関心を引き出す授業展開を工夫し、学力と ICT 活用能力の向上を目指す。 （2）授業の中でのコミュニケーションツールとして、ICT の活用を充実させる。 （3）授業と関連付けたタブレットの持ち帰り学習を進め、家庭学習の充実と ICT 活用能力の向上につなげる。	○２学期より導入されたノート型パソコンを活用し、クラウド利用による協働作業を授業や特別活動の場に取り入れ、児童にとって身近なコミュニケーションツールとなるよう取り組んだ。 ○低学年でもノート型パソコンを文房具の一つとして使えるようになり、授業の中で活用できるようになっている。 △ICT リテラシーの向上と合わせて、安全安心のための情報モラル、デジタル・シチズンシップも意識して高めていく必要がある。	・１年生からノート型パソコンを学習に活用できていた。 ・PTA と連携して、ノート型パソコンのケースを用意する等、大切に使用させる工夫があった。
	研修(資質向上の取組)	1　授業観の構築につながる校内研修の充実	（1）スクール AI の活用により、授業準備の効率化と、算数科における探求的な学びの展開、単元構想について具体化を進め、児童主体の授業観の構築につなげる。 （2）クラウドを活用した研究協議の形を取り入れ、協議の効率化と焦点化を進める。 （3）授業研究会を通して探求的な学びについての研究を行い、外部研究組織や AI による支援を活用して授業展開を具体化する。	○スクール AI（算数）の活用は、なかなか広がりが見られなかったが、文書作成や教材作成等では生成 AI の活用が普及し、校務の効率化と合わせて授業でも ICT 活用意識が高まった。 ○大学准教授や教育委員会指導主事を含めた chat の中で日々の授業実践について交流し、客観的な視点もある日常的な研究の場を設定・活用することができた。 ・研究授業の事後研究会で、クラウドを活用した協議を行うことができた。直接対面での協議ほどの深まりは難しかったが、クラウドによる協議と、それを基にした対面での協議を組み合わせる等、活用の幅は広げられると感じた。	・いろいろなことを探りながら、少しずつでも進んでいこうとしている学校の姿は、素直に評価できる。
次年度に向けた改善の方向性		1　これまで本校で大切にしてきた「トライ＆エラーのできる安心感の醸成」を学校経営方針の中に位置づけ継続させる。「つながり」を教育活動のキーワードとし、心理的安全性の高い集団の中で「挑戦」する活動の場を設定していく。 2　「探究的な学び」の質を向上させるため、「分析」過程での児童が思考する活動を大切にした授業づくりを進める。 3　学習者主体の授業展開と、学習内容の習得を両立させられるよう、校内の授業研究を充実させる。 4　不登校への組織的な対応を継続し、児童の背景にまで目を向けた丁寧なアセスメントを基にした個に寄り添う支援を行うことで心的な原因を解消できるよう取り組む。			・全校の「つながり」を大切にした取組を継続してほしい。